

## 発電施設運営へのコンセッション方式の導入検討

### ■経緯

平成30年1月 平成29年度第4回県有施設・資産有効活用戦略会議  
第二次評価結果概要

PFI・コンセッション方式の導入は可能であるものの、コンセッション方式を導入する場合、各ケースの中で最大の県の収益額(PFI+直営運営)及び直営で改修中の春米発電所の改修費の合計額を運営権対価の最低制限価格として設定することを基本。(今後の詳細検討で市場動向も踏まえつつ、最終決定。民間事業者の資金調達能力や創意工夫などを期待し、県利益の最大化を図る)



### 【結論】

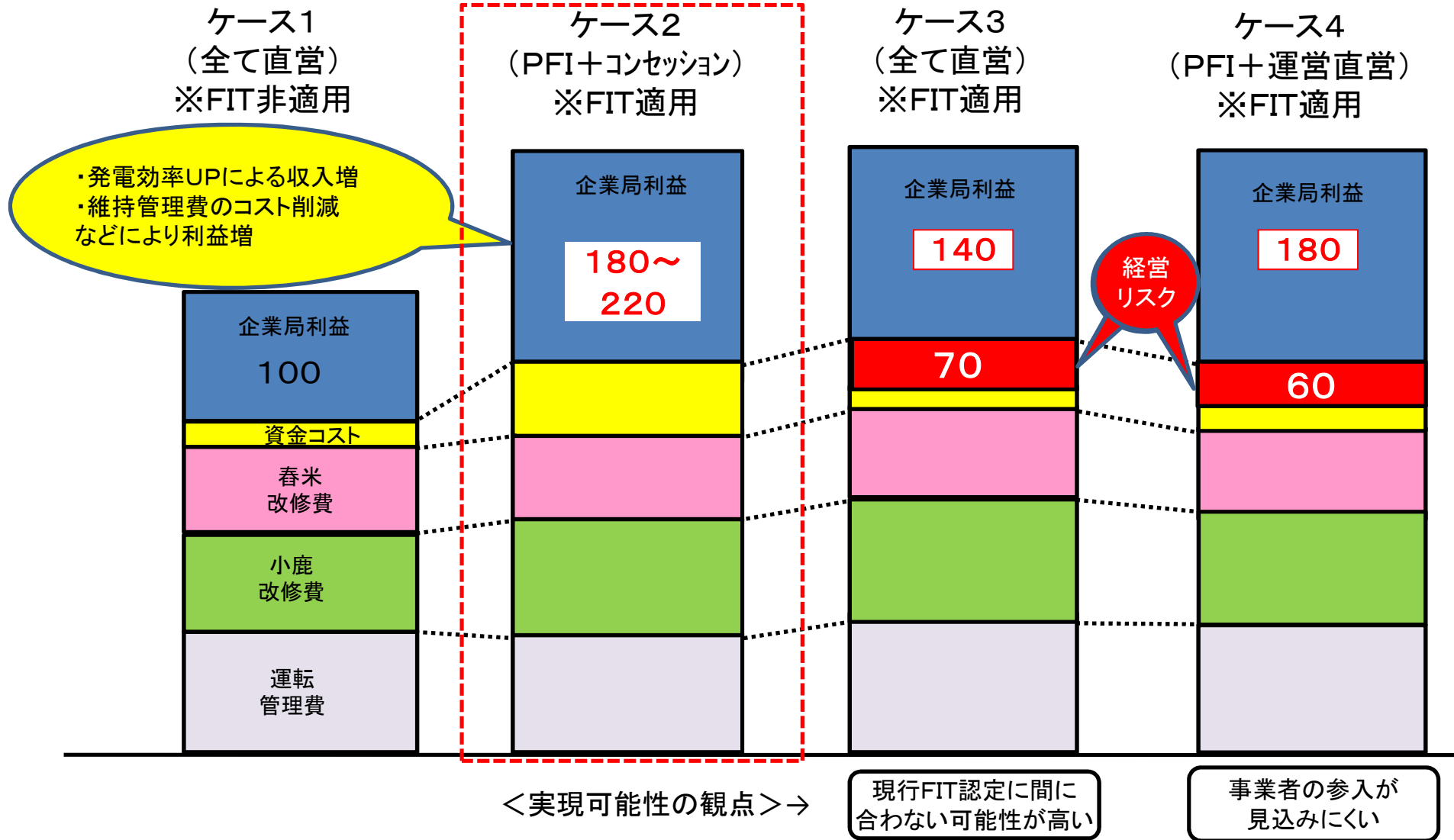
小鹿第一・第二発電所の改修についてPFI手法を導入し、運営権対価の設定に留意の上、両発電所と合わせて春米発電所の運営に対してコンセッション方式の導入を検討することが有効であると考えられる。

※スケジュール上、5月頃までに「コンセッション方式導入是非の再検討」を実施することとなった

# 発電施設運営へのコンセッション方式の導入検討

## ■再検討結果概要

企業局利益最大化の観点から手法の再検討を実施



※上記は、ケース1の企業局利益を100として指数化したもの

※経営リスクとは、建設費の増大リスクや濁水等による収入減のリスクなど可能な範囲で定量化したもの

# 発電施設運営へのコンセッション方式の導入検討

## ■再検討結果概要

### 【再検討の評価結果案】

企業局の経営リスクが移転できるとともに、民間事業者の発電効率アップによる収入増、維持管理費のコスト削減等により利益増が見込まれるため、ケース2(PFI+コンセッション方式)の企業局利益が最大と考えられる。また、実現可能性の点でも優位。



**企業局利益が最大となるケース2（PFI+コンセッション方式）を採用する。**

## ■今後の予定

6月～ 事業説明会及びサウンディングの実施  
実施方針及び要求水準案の策定

8月頃 日野川第一発電所のPFI対象施設への追加の是非の判断  
※現在、リニューアル概略検討中